



へびぬまおよ まぼりいせきしゅつどひん ③9 蛇沼及び間堀遺跡出土品

未指定(名勝地・考古資料)



館林市の南部にあり、「祈りの沼」茂林寺沼の東にある周囲約1kmの細長い沼。

蛇沼周辺には湿原が残り「里沼」の原風景を残すとともに、隣接する台地上には縄文時代から続く間堀遺跡がある。出土品の縄文土器群は多彩な装飾を持ち、沼辺で生きた縄文人の暮らしと「祈り」の心をうかがい知ることができる。

【蛇沼(へびぬま)】

館林市南東部にある沼。市立第四中学校の南にある沼で、平成7年(1995)に国絶滅危惧Ⅱ種のオニバスの生息が確認された。同中学校生徒や地域ボランティア団体が中心となってオニバス保護を含めた環境保全活動が行われている。



【オニバス(おにばす)】

スイレン科に属する一年生の水草。夏頃に広がる巨大な葉には大きなトゲもあることから「鬼(オニ)」の名がつけられた。日本では絶滅危惧Ⅱ種に指定されている。悪化する環境や河川改修などによる沼・湿原の埋め立てにより自生地が消滅するケースが多い。土中に残った種子が生育環境の改善により、突然オニバスが開花する例もある。



【間堀遺跡(まぼりいせき)】

縄文時代の遺跡。昭和57年(1982)に第四中学校建設に際して埋蔵文化財発掘調査が行われ、以後、平成19～21年(2007～09)にも調査が実施された。確認された住居址はその後「歴史の森」の中に「縄文邑」として復元・公開されていた。



【間堀遺跡出土品(まぼりいせきしゅつどひん)】

復元された縄文土器は約80個、破片は約1,500点、石器類は約250点のほか、古墳時代以降の土器類が多数確認されている。間堀遺跡出土品の一部は、館林市第一資料館にて展示されている。

